

科 目 名	理系のための基礎英語 I				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>Students will learn general vocabulary used in basic mathematics. This vocabulary is learned by American children in school, from first grade to early middle school. Course content focuses on reading mathematic notations, and listening. This class is held in English.</p> <p>基本的な数学の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが小学1年生から中学校までに学校で学ぶ単語です。この科目では、数学式の英語でのリーディングとリスニングにフォーカスします。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学関係の英単語を分ることができる。</li> <li>2. 数学式を英語で読めることができる。</li> <li>3. 英語を聞いて式を書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	80 %	定期試験		
	専門知識	10 %	定期試験		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	10 %	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Placement Test プレースメントテスト				
2.	"Numbers" 一般の数字について				
3.	Addition 足し算について				
4.	Subtraction 引き算について				
5.	Multiplication 掛け算について				
6.	Division 割り算について				
7.	Fractions 分数について				
8.	Decimals & Percents 小数とパーセント				
9.	Negative Numbers & Inequalities 負数と不等式				
10.	Exponents & Roots 指数とルート				
11.	Geometry 1: Lines & Angles 幾何学 1 : 直線と角度				
12.	Geometry 2: Polygons, Circles and Solids 幾何学 2 : 多角形、円、立体				
13.	Using Data テーブルを使ってデータを表す				
14.	Review レビュー				

15.	Review レビュー				
授業外学修について	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンに eLearning 教材がついている。eLearning の課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60 %	20 %	0 %	0 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(理系のための基礎英語 I)

科 目 名	英語リーディング I				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>基本的な英語運用能力の土台となる読解力を身につけるため、幅広いテーマの英文を用いた読解を行う。授業名は「Reading」となっているが、本授業では「Reading」だけを扱うのではなく、英語の他の技能（スピーキング、ライティング、リスニング）の能力も併せて強化する。特に、読んだものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。また、目的に応じた文章の種類や構造の違いを学び、新出語彙・イディオムや基本的な文法の確認を行う。文章を構成する各パラグラフの関係を把握し全体の主旨を読み解いていくための基本的なリーディング・スキルを習得する。</p>				
授業科目の到達目標	<p>1. 長文の英語を読解する際に必要なスキル（スキミングやスキヤニング）を学習し、リーディングに活用することができる。</p> <p>2. 英語のパラグラフの構成を理解し、ライティングに活用することができる。</p> <p>3. 読んだものを自分のことばで英語でまとめることができる（サマリー）。</p> <p>4. 授業で取り扱う教科書の内容について、自分の意見を英語（200語）で書くことができる（ライティング）。</p> <p>5. 読んだものについて、自分の意見を述べるすることができる（スピーキング）。</p>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50 %	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	20 %	その他テスト、プレゼンテーション		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	20 %	レポート、プレゼンテーション		
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業についてのオリエンテーションと日本語と英語の違いについて。				
2.	日本語と英語の違いについて（発音・書き方編）				
3.	Unit 1 Food and Health パラグラフのメインアイディアの探し方				
4.	Unit 1 Food and Health パラグラフの目的の探し方				
5.	Unit 2 Our Bond with Animals 代名詞の有効的な使い方				
6.	Unit 2 Our Bond with Animals 詳細部の理解のしかた				
7.	Unit 3 History Detectives 時系列で出来事を述べる方法				
8.	Unit 3 History Detectives 理論と事実の見分け方				
9.	Unit 4 Traditions and Rituals 知らないことばに遭遇したときの対処法				
10.	Unit 4 Traditions and Rituals メインアイディアとサポーターアイディアの違い				
11.	Unit 5 Urban Underworlds 前置詞節の役割				
12.	Unit 5 Urban Underworlds 長文の理解のしかた				
13.	Unit 6 Reef Encounters 原因と結果の関係を理解する				

14.	Unit 6 Reef Encounters 対照的な関係を理解する				
15.	Unit 7 Sweet Scents 類似点・相違点の区別のしかた				
授業外学修について	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 (予習 60分) ・教科書の内容に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。(復習 40分) ・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。 ・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。 ・単語学習には Quizlet を使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと(使い方などは授業内で説明)				
教科書	Reading Explorer 2 (Second Edition) Paul Macintyre and Nancy Douglas and David Bohlke 著 (Cengage learning)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	○	○
成績評価の割合	0 %	20 %	35 %	35 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・ 課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・ 他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・ 授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・ 授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> </ul>				

(英語リーディング I)

科 目 名	英語基礎 I				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	この授業では、英語の基礎力を身につけることに主眼を置いている。これは、大学においてより高度な英語力を身につけ、仕事に使えるような実践的な英語運用能力を修得するためには、まず「土台」を堅固なものにしなくてはならないからである。具体的には、演習問題、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力の修得のための基礎となる・語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力を身につけることを目指す。特に授業においては、英文解釈の演習問題を通して英文構造の分析と把握に努めていく。				
授業科目の到達目標	<p>1 副教材から英文法の知識を再編して、構文を論理的にとらえる力とともに、英文内容を正確につかむための基礎力を養うことができる。</p> <p>2 授業中に課される演習問題を通して、上記1の基礎力の定着を図ることができる。</p> <p>3 TOEIC の音声教材から、リスニングの演習問題を通して、TOEIC の形式に慣れるとともに基礎的な聴解力の向上を図ることができる。</p> <p>4 副教材から、理工系学生のための必修英単語2600語を習得できる。</p> <p>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる（直読直解）。</p>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	%	期末テスト、語彙小テスト	
	専門知識		%		
	倫理観		%		
	主体性	20%	%	課題提出（多読・リスニング・文法）、予習（小テストの準備）	
	論理性	20%	%	授業中の演習問題（英文解釈・文法クイズ）	
	国際感覚		%		
	協調性		%		
	創造力		%		
			%	責任感	
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	演習問題：文型判断、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
3.	演習問題：接続詞、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
4.	演習問題：句と節、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
5.	演習問題：形と意味①、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
6.	演習問題：形と意味②、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
7.	演習問題：準動詞①、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
8.	演習問題：準動詞②、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
9.	演習問題：後置修飾、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
10.	演習問題：文頭の句・節、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
11.	演習問題：同格、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
12.	演習問題：倒置、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				

13.	演習問題：省略、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
14.	演習問題：名詞構文、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
15.	まとめのテスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 語彙テキストの予習（小テストの準備）</li> <li>2 リスニング・文法テキストの予習（課題提出）</li> <li>3 多読の課題（1週間に2500語以上読んで多読シートを提出）</li> </ol>				
教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 江熊聡子他『TOEIC TEST リスニングナビゲーター』（成美堂）</li> <li>2 亀山太一監修『理工系学生のための必修英単語2600』（成美堂）</li> <li>3 高橋美津子『実践！使って身につく基礎英文法』（朝日出版社）</li> </ol> <p>授業における演習問題についてはプリントを配布する。 また、上記3冊の副教材は秋学期の「英語基礎Ⅱ」でも使用する。</p>				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50 %	10 %	30 %	0 %	10 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績 評価の基準に関する 補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。</li> </ul>				

（英語基礎Ⅰ）

科 目 名	理系のための基礎英語Ⅱ				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	Students will learn basic vocabulary used in the physical sciences, focusing on waves and light. This vocabulary is learned by American children in middle school. Course content focuses on completing science-based tasks in English. 基本的な理科の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが中学校で学ぶ単語です。この科目は波と光にフォーカスします。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理科関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. 理科的な結果を英語で書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50 %	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	50 %	ワークシート		
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	Introduction イン트로ダクション				
2.	Principles of Physical Science 基本的な理科単語				
3.	Mechanical Waves -- Kinds of Waves 力学的な波 -- 波の種類				
4.	Parts of a Wave 波の要素				
5.	Reflection & Diffraction 反射と回折				
6.	Electromagnetic Waves 電磁波				
7.	Visible Spectrum 可視スペクトル				
8.	Transmission 伝搬				
9.	Reflection of Light 光の反射				
10.	Color Absorption 光の吸収				
11.	Scattering 散乱				
12.	Convex & Concave Mirrors 凸面鏡と凹面鏡				
13.	Refraction 屈折				
14.	Review レビュー				
15.	Review レビュー				

授業外学修について	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンに eLearning 教材がついている。eLearning の課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60 %	20 %	0 %	0 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(理系のための基礎英語Ⅱ)

科 目 名	英語リーディングⅡ				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	読解力を身につけるため、幅広いテーマの英文を用いた読解を行う。また、読解の後はそれに関連した動画 (TED Talks) を視聴し、さらに理解を深める。授業名は「Reading」となっているが、本授業では「Reading」だけを扱うのではなく、英語の他の技能 (スピーキング、ライティング、リスニング) の能力も併せて強化する。特に、読んだものや見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。また、目的に応じた文章の種類や構造の違いを学び、新出語彙・イディオムや基本的な文法の確認を行う。文章を構成する各パラグラフの関係を把握し全体の主旨を読み解いていくための基本的なリーディング・スキルを習得する。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的なトピックセンテンスを書くことができる。</li> <li>2. 授業で取り扱うReadingやTED Talkの内容について、自分の意見を英語で書くことができる (300語程度)。</li> <li>3. 授業で取り扱うReadingやTED Talkの内容について、自分の意見を英語で話すことができる (3分程度)。</li> <li>4. リーディングに必要なスキルを学習し、長文読解に活用することができる。</li> <li>5. カタカナ英語ではなく、英語の発音 (語末の母音を落とすなど) を意識して、英語を発話できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	55 %	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	25 %	その他テスト、取組状況等、プレゼンテーション		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	10 %	レポート、プレゼンテーション		
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、英語の発音と書き方について				
2.	Unit 2. Fragile Forest メインアイデアの見つけかた、内容からことばの意味を理解する練習				
3.	Unit 2. Fragile Forest (Ted Talk) 目的とサポーティングエヴィデンスを理解する				
4.	Unit 4. Game Changers データを理解する、長所・短所の見つけかた				
5.	Unit 4. Game Changers (Ted Talk) 見たことをまとめる練習				
6.	Unit 5. Lessons in Learning 類似点と相違点を見つける練習				
7.	Unit 5. Lessons in Learning (Ted Talk) 全体的な内容を要約する練習				
8.	Unit 6. Food for Life 問題点とその解決策を読み取る				
9.	Unit 6. Food for Life (Ted Talk) メインアイデアとキーアイデアを理解する練習				
10.	Unit 7. Body Signs 読み物と自分の経験を結びつけて理解をする				
11.	Unit 7. Body Signs (Ted Talk) 時系列を追って内容を理解する				

12.	Unit 9. Changing Perspectives 書かれている情報をスキミングする				
13.	Unit 9. Changing Perspectives (Ted Talk) 話し手のトーンとメッセージを理解する				
14.	Unit 10. Data Detectives グラフを理解する				
15.	Unit 10. Data Detectives (Ted Talk) 情報を分析する練習				
授業外学習について	授業外の予習・復習として、以下の内容に取り組むこと。 (予習 60分) ・教科書の内容に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。(復習 40分) ・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。 ・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。 ・単語学習には Quizlet を使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと(使い方などは授業内で説明)				
教科書	21st Century Reading: Creative thinking and reading with TED talks, Level 2, Laurie Blass, Mari Vargo and Eunice Yeates (Cengage Learning)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	○	○
成績評価の割合	0 %	20 %	35 %	35 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・ 課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・ 他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・ 授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・ 授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> </ul>				

(英語リーディングⅡ)

科 目 名	英語基礎Ⅱ				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	この授業では「英語基礎Ⅰ」に引き続き、英語の基礎力を身につけることに主眼を置く。春学期で学習した短文単位の英文解釈の練習による英文構造の把握からパラグラフ単位の英文解釈の演習問題を行うことで、より高度な英文構造の分析と理解の向上に努める。また春学期同様、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力の修得のための基礎となる語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力のさらなる向上を目指す。				
授業科目の到達目標	<p>1 パラグラフ単位の英文を読んでいくため前後の英文の関係性にも注意を払いながら、一文一文を正確に解釈していく訓練を積むことができる。</p> <p>2 演習問題に採用する英文は多彩なジャンルから取り上げているため、実用的な英文に慣れると同時に教養的な知識も身につけることができる。</p> <p>3 副教材から、TOEIC のリスニングの演習問題を通して、TOEIC の形式に慣れると共に聴解力の向上を図ることができる。</p> <p>4 副教材から、理工系学生のための必修英単語2600語を習得できる。</p> <p>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる（直読直解）。</p>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	%	期末テスト、小テスト	
	専門知識		%		
	倫理観		%		
	主体性	30%	%	課題提出（多読・リスニング・文法）、語彙小テストの準備	
	論理性	10%	%	演習問題（英文解釈）	
	国際感覚		%		
	協調性		%		
	創造力		%		
			%	責任感	
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
3.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
4.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
5.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
6.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
7.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
8.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
9.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
10.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
11.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
12.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				

13.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
14.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
15.	まとめのテスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 語彙テキストの予習（小テストの準備）</li> <li>2 リスニング・文法テキストの予習（課題提出）</li> <li>3 多読の課題（1週間に2500語以上読んで多読シートを提出）</li> </ol>				
教 科 書	<p>春学期と同じ。 秋学期から履修する学生は、売店では販売していないので、各自個別に注文することに注意してください。</p>				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成 績 評 価 の 割 合	50 %	10 %	30 %	0 %	10 %
成 績 評 価 の 基 準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関してはガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語基礎Ⅱ)

科 目 名	アメリカ事情 I				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class. Class content will consist a number of English "Modules" concerning a variety of topics. ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60% %	定期試験、小テスト (クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	20% %	ワークシート、小テスト (クイズ)		
	協調性	20% %	ワークシート		
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	1. Course Introduction				
2.	2. Reading Passage				
3.	3. Reading Passage & Quiz				
4.	4. Reading Passage & Quiz				
5.	5. Reading Passage & Quiz				
6.	6. Reading Passage & Quiz				
7.	7. Reading Passage & Quiz				
8.	8. Listening & Video				
9.	9. Reading Passage & Quiz				
10.	10. Listening & Video				
11.	11. Reading Passage & Quiz				
12.	12. Listening & Video				
13.	13. Reading Passage & Quiz				
14.	14. Listening Quiz				
15.	15. Reading Quiz				

授業外学修について	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。特に読書のプリントを読んでください。				
教科書	Handouts				
参考文献	使用しない				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60 %	40 %	0 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(アメリカ事情 I)

科 目 名	TOEIC I				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	中級者向けTOEIC対策教材を用い受験に向けた演習を行うが、それと同時にテストを受験するためのスキルだけではなく、リスニングの練習問題を用いてスピーキングの練習にも取り組む。TOEIC対策に関しては、リスニング問題の形式・主題、リーディング問題の形式・文章の種類・主題、頻出の文法項目や語彙・イディオムを確認し、繰り返し練習する。				
授業科目の到達目標	1. TOEICテストに出題される多様な英単語の意味をさまざまな文脈で理解し、説明することができる。 2. TOEICテストに出題される英文法のさまざまな用法を理解し、的確に使うことができる。 3. TOEICテストのリスニング・パートにおける問題構成を把握し、基本的な問題について戦略的に解答することができる。 4. TOEICテストのリーディング・パートにおける問題構成を把握し、基本的な問題について戦略的に解答することができる。 5. TOEICテストの出題傾向、頻出のテーマを把握し、高得点に活かすことができる。				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	定期試験、その他テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	20 %	定期試験、その他テスト		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	10 %	取組状況等		
授業の展開					
1.	授業と TOEIC についての説明（テストの形式など）				
2.	Unit 1 人物の動作表現、品詞・代名詞				
3.	Unit2 疑問視で始まる疑問文、態・分詞				
4.	Unit 3 店・ホテルでの会話、読解力の基礎を身につける				
5.	Unit 4 留守番電話、詳細情報を特定する				
6.	Unit 5 ものに関する描写、話の展開を読み取る				
7.	Unit 6 Yes/No 疑問文・選択疑問文、接続詞・前置詞（スピーキングのテストも実施）				
8.	Unit 7 日常生活における会話、内容把握問題				
9.	Unit 8 アナウンス・宣伝、語彙問題				
10.	Unit 9 ステートメント・付加疑問文、自制・代名詞・語彙				
11.	Unit 10 オフィスでの会話、複数のパッセージの理解				
12.	Unit 11 会議やイベントなどでの会話				
13.	Unit 12 オフィスでの会話、つなぎ語・文選択				
14.	Unit 13 & 14 ニュース・ラジオ放送、図表問題と意図問題				

15.	まとめとテスト				
授業外学習について	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 ・教科書の「Brush up」、「Exercise 1 - 3」は授業前に回答しておくこと。(予習) ・授業後には、テキストの練習問題の授業で扱わなかった箇所を確認をする。(復習) ・文法や語彙を中心に復習し、練習問題に繰り返し取り組む。(復習)				
教科書	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC® L&R TEST All in One Advanced, 早川 幸治 著 (桐原書店)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	70 %	20 %	0 %	0 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。 ・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。 ・授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある				

(TOEIC I)

科 目 名	英語と文化 I				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、世界の文化を歴史的にとらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なものの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、映画文化史の英文（大学中級レベル）を精読しながら、映画を芸術史としてのみとらえるのではなく、政治・社会・経済・技術史という大きな文脈の中で考えていく視点を養っていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。</li> <li>2. 映画を歴史的に見ることで映像文化を批判的にとらえることができる。</li> <li>3. 授業で精読する英文に関連する配布資料（用語集）によって映画に関する基本的な専門用語を習得できる。</li> <li>4. 英語文献を正確に読解し、関連する映像を観たうえで自分の考えや意見を発信できる。</li> <li>5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる（直読直解）。</li> <li>6. 副教材を通して、TOEICのリスニングとリーディングの形式に慣れるとともに、映画芸術関係の英文とは違ったビジネス英語の基礎力を身につけることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50%	%	定期試験	
	専門知識		%		
	倫理観		%		
	主体性	20%	%	課題提出（多読・演習問題）、プリント（映画芸術関係の英文）の予習	
	論理性	20%	%	リアクションペーパーの作成	
	国際感覚	10%	%	外国文化の理解・受容	
	協調性		%		
	創造力		%		
			%	責任感	
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	プリント、pp. 4-13、課題提出（多読・演習問題）、				
3.	プリント、pp. 14-15、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
4.	プリント、pp. 16-18、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
5.	プリント、pp. 18-21、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
6.	プリント、pp. 22-26、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
7.	プリント、pp. 26-27、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
8.	プリント、pp. 29-31、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
9.	プリント、pp. 32-35、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
10.	プリント、pp. 36-37、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
11.	プリント、pp. 38-41、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
12.	プリント、pp. 42-45、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
13.	プリント、pp. 46-51、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				

14.	プリント、pp. 52-61、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1. プリントの英文の予習（日本語訳作成） 2. リアクションペーパーの作成 3. 多読の課題（週に3000語以上） 4. 副教材の演習問題				
教 科 書	古家聡他『TOEIC L&R TEST リスニング&ヴォキャブラリー徹底演習』 （三修社）  （授業内で精読する英文はプリントで配布。）				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成 績 評 価 の 割 合	50 %	0 %	20 %	0 %	30 %
成 績 評 価 の 基 準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更があれば、ガイダンス時または授業時に連絡する。</li> </ul>				

（英語と文化 I）

科 目 名	フランス語				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	30
授 業 担 当 者	高野 真理子（非常勤講師）		単位認定責任者	高野 真理子	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>本授業では、話す、聞く、書く、読むという四技能をバランス良く学ぶことによって、フランス語の総合的な入門学習を目指します。日常生活や旅行における平易な表現から始めてフランス語の基礎力を養い、発音・会話練習や練習問題を通じてそれらを応用する力を伸ばしていきます。</p> <p>この点で、フランス語の実用能力を客観的に証明する実用フランス語検定試験(仏検)5級程度の語学力を目指せる学習といえます。</p> <p>また、言語を学ぶことは、それを使う人と国を知ることでもあります。この授業では芸術やグルメなど、フランスの文化や社会、歴史も紹介していきます。それらに親しむことによってヨーロッパへの理解を深め、広い視野を養うことも大切と言えるでしょう。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語の音と綴り字の関係を理解することで、単語や短い文章を正確に発音することができる。</li> <li>2. 文法を理解し、単語や動詞の活用を暗記することで、挨拶、簡単な自己紹介や趣味についてフランス語で表現・作文することができる。</li> <li>3. 短いフランス語の文章を聞いて意味を理解し、また相手に質問することができる。</li> <li>4. 総合的な学習の成果として、実用フランス語検定5級程度の4技能(聞く、話す、読む、書く)を習得できる。</li> <li>5. フランス語の音の美しさ、文法の面白さ、ヨーロッパの豊かな文化に触れ、理解することによって、広い視野を養い、独自の意見を持って議論に参加できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	口頭発表、定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10 %	授業態度、口頭発表、課題		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	口頭発表、定期試験		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	10 %	口頭発表、定期試験			
授業の展開					
1.	ガイダンス：授業の進め方、評価についてなど 第1課 出会い（1）：アルファベット、挨拶、être 動詞				
2.	第1課 出会い（1）：第一群規則動詞、名詞の性・数、疑問文型				
3.	第2課 出会い（2）：出身地、職業の表現、前置詞 en, à, à と定冠詞の縮約				
4.	第2課 出会い（2）：所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形、数字				
5.	第3課 紹介する：否定文、単純倒置形・複合倒置形				
6.	第3課 紹介する：前置詞 de と定冠詞の縮約				
7.	第4課 専攻と余暇：科目・趣味の語彙、部分冠詞				
8.	第4課 専攻と余暇：好き嫌いの表現、中性代名詞 en, y				

9.	第5課 家族：家族の語彙、指示表現、否定の de、形容詞				
10.	第5課 家族：形容詞の女性形、男性第2形を持つ形容詞、口頭発表①				
11.	第6課 持ち物：持ち物の語彙、物の名前を尋ねる、口頭発表②				
12.	第6課 持ち物：所有を表す表現、口頭発表③				
13.	第10課 食品：朝食のメニュー、好きな食べ物、口頭発表④				
14.	第10課 食品：カフェでの注文、口頭発表⑤				
15.	まとめ：口頭発表（予備日）、試験対策				
授業外学修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、配布するプリント、課題等で必ず予習・復習をすること。その際には、各回とも前回の授業の学習内容、とりわけ動詞の活用や重要単語は暗記して授業に臨むこと。テキストを読み、初出の単語は調べ、質問事項をまとめておくなど、言語学習は毎日少しでもこつこつ行うのが望ましい。</li> <li>・教科書付属の音声ダウンロードし、各自発音の確認・練習を行うことが望ましい。</li> <li>・出される課題もしくは教科書付属のワークブックには必ず取り組み、課題は提出期限までに提出すること（提出形式は、授業形態に応じて紙媒体もしくはポータルで行う）。やむを得ない場合で提出が遅れた場合も極力提出することが望ましい。採点結果が極めて不十分な場合には、再提出を求める場合があるので注意すること。</li> <li>・テーマや各課の区切りで小テスト（動詞の活用など）を行うことがある。事前に通知するのでしっかり準備をすること。</li> </ul>				
教科書	高橋百代 他著『場面で学ぶフランス語 I（三訂版）』、三修社、2019 補助のプリントも配布予定				
参考文献	仏和辞典を一冊購入することを推奨する。 辞典についての詳細は、ガイダンス時に紹介する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	○	○
成績評価の割合	50 %	0 %	15 %	20 %	15 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加態度、小テスト、課題の提出、口頭発表、定期試験などにより総合的に評価する。</li> <li>・出席は非常に重要。欠席が規定時間数の3分の1を越えれば期末試験の受験資格を失う。毎回出席することに加え、積極的に声をだし発音すること、会話練習や口頭発表、宿題などに主体的に取り組む姿勢を評価する。</li> <li>・遅刻は厳禁。3回の遅刻で1回の欠席にカウントする。</li> <li>・定期試験は、教科書、ワークブック、課題プリントなどからも出題される。課題や小テスト、ワークブックは返却後、ファイルして保存しておくのが望ましい。再試験は行わないので注意すること。</li> <li>・課題は翌週の授業までに採点し返却する。解説はポータルへの掲載、プリント配布、あるいは授業内で全員に共有など、必要に応じて行う予定。</li> </ul>				

（フランス語）

科目名	中国語 1				
配当学年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2 単位	授業回数	30
授業担当者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	中国は世界の人口の五分の一を占め、世界第二の経済大国に成長したことに伴い、日中間の科学技術、経済、文化などさまざまな分野で交流が深まりつつある。近い将来、その交流に加わるために中国語の修得が不可欠で、その文化を理解するのも大事である。本講義では、中国語の基本として、発音、文字、語彙、構文、会話について、日本語と比べながら、わかりやすく説明し、文法演習を重ね、実用的会話の練習も繰り返すうちに、自然に中国語会話力、作文力をマスターする。また、授業の内容を交えて、映像資料で中国の文化、最新情報も紹介する。				
授業科目の到達目標	1. 中国語の表音文字が発音できる。 2. 中国語の基本文法をマスターすることができる。 3. 日常的会話力を習得することができる。 4. 簡単な作文能力を習得することができる。 5. 語学の勉強に伴って、最新中国事情を知り、文化的理解を深める。				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	期末試験、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10 %	授業参加		
	論理性	%			
	国際感覚	20 %	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス 中国語概論				
2.	中国語の発音入門				
3.	中国語の発音入門				
4.	第一課 人称代名詞 あなたの名前は何といますか。				
5.	第二課 指示代名詞 これは何ですか。				
6.	第三課 動詞述語文 あなたは何を食べますか。				
7.	第四課 形容詞述語文 最近はどうですか。				
8.	第五課 名詞述語文 全部でいくらかですか。				
9.	第六課 存在を表す「有」と 所在を表す「在」 病院はどこですか。				
10.	第七課 前置詞 どこで会いましょうか。				
11.	第八課 完了、経験の表現 どのくらい行っていたのですか。				
12.	第九課 助動詞 何を見ているのですか。				
13.	第十課 様態補語 趣味は何ですか。				
14.	第十一課 結果補語 航空券はもう予約しましたか。				
15.	第十二課 方向補語 道中ご無事に				

授業外学修について	1課ごとに宿題を配布、チェックする。				
教科書	云肖梅 森若裕子著 『校园故事 キャンパス物語』 松柏社				
参考文献	適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50 %	10 %	10 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	定期試験は持ち込み不可、いままでの合格率は90-95%。				

(中国語 1)

科 目 名	アメリカ事情Ⅱ				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class.</p> <p>Class content will consist a number of advanced English "Modules" concerning a variety of topics.</p> <p>ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60% %	定期試験、小テスト (クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	20% %	ワークシート、小テスト (クイズ)		
	協調性	20% %	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	1. Course Introduction				
2.	2. Interactive Game Introduction				
3.	3. Reading Passage				
4.	4. Interactive Game				
5.	5. Reading Passage				
6.	6. Interactive Game				
7.	7. Reading Quiz				
8.	8. Listening & Video				
9.	9. Reading Passage				
10.	10. Listening & Video				
11.	11. Reading Passage				
12.	12. Listening & Video				
13.	13. Reading Passage				
14.	14. Listening Quiz				
15.	15. Reading Quiz				

授業外学修について	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。特に読書のプリントを読んでください。				
教科書	Handouts				
参考文献	使用しない				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60 %	40 %	0 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(アメリカ事情Ⅱ)

科目名	TOEIC II				
配当学年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授業担当者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	TOEICはビジネス英語を取り扱っているため、高得点を狙うためには、英語の知識に加えてビジネスに関する知識が必要である。そのため、本授業ではビジネス英語に関する知識を強化を目指す。さらに、これまで勉強してきた文法知識をスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングに実践的に活かす練習を行う。授業ではTOEICで出題されるリスニングやリーディングに類似した形式の設問でTOEIC受験に備える。また、TOEICのための勉強には自律学習が必要である。その自律学習力を養うために、セルフスタディーを実施する。ここでは学生が興味があることと英語を結びつけ、各自が学習目標とその目標達成のために学習計画を作り、それに沿って1学期学習を進める。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEICテストに必要なビジネス英語の知識を強化し、TOEICテストの受験に活用することができる。</li> <li>2. TOEICテストに出題される英文法のさまざまな用法を理解し、聞き取ることができる（リスニング）。</li> <li>3. ビジネスや経済に関する内容について、自分の意見を理論的に述べることができる（スピーキングとライティング）。</li> <li>4. ビジネスや経済に関する語彙力を強化し、リーディングに活かすことができる（リーディング）。</li> <li>5. セルフスタディーを通して、学習目標と学習計画を作り、それに沿って自律学習ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	65 %	その他テスト、取組状況等		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	25 %	その他テスト、取組状況等		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業とセルフスタディーの説明、セルフスタディーのための計画作り				
2.	Unit 1. Corporations. 動名詞				
3.	Unit 2. Banking 不定詞				
4.	Unit 3. GATT, WTO, and a 65,000-employee mega-factory in Vietnam 比較級と最上級				
5.	Unit 4. Privatizing Government Function 関係代名詞				
6.	Unit 5. Internet and surfing for dollars 動詞の連語				
7.	Unit 6. Organic food vs. Non-organic food 現在分詞・過去分詞の形容詞的用法				
8.	Unit 7. Foreign companies control American ports 受動態				
9.	Unit 8. The world bank, the international monetary fund 助動詞				
10.	Unit 9. The U.S. health care system 副詞				

11.	Unit 10. The Japanese automobile industry 形容詞の役割				
12.	Unit 11. Deficit Spending in the U.S. 接続詞				
13.	Unit 12. The economics of War: Who says, "Was is hell"? 前置詞				
14.	Unit 13. Japan's economic bubble 受動態				
15.	Unit 14. Cutting health costs through alternative medicine 現在完了				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容には授業前に目を通し、知らないことばの意味を調べておくこと。また、リスニング用の音声を聞き、シャドーイングをすること。</li> <li>・授業後には、テキストの練習問題の授業で扱わなかった箇所の確認をする。</li> <li>・各自、学習計画に沿ってセルフスタディーを進め、毎週進捗状況を報告する。</li> </ul>				
教 科 書	グローバル時代のビジネス 現代の経済の課題と展望 Global Transformation Insights into Modern Economy and International Business 石井隆之 他 著 (成美堂)				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	○	○
成 績 評 価 の 割 合	0 %	40 %	20 %	30 %	10 %
成 績 評 価 の 基 準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)</p>				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> </ul>				

(TOEIC II)

科 目 名	英語と文化Ⅱ				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、「英語と文化Ⅰ」同様、世界の文化を歴史적으로とらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なもの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、「ドラキュラ」と「フランケンシュタイン」（大学中級レベルから上級レベル）を精読しながら、両作品に隠された様々な問題を歴史的・社会的・文化的文脈から批判的に読み解いていく視点を養っていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。</li> <li>2. 両作品を精読することで批判的に分析する思考力を身につけることができる。</li> <li>3. 「ドラキュラ」に関連する資料を通して「ドラキュラ」の歴史的・社会的・文化的背景を知ることができる。</li> <li>4. 「フランケンシュタイン」に関連する資料を通して「フランケンシュタイン」の歴史的・社会的・文化的背景を知ることができる。</li> <li>5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる（直読直解）。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	%	期末テスト	
	専門知識		%		
	倫理観		%		
	主体性	30%	%	課題提出（多読）、テキスト・プリントの予習（日本語訳作成）	
	論理性		%		
	国際感覚	10%	%	外国文化の理解・受容	
	協調性		%		
	創造力		%		
	責任感		%		
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	ドラキュラ 1 & 2、多読提出				
3.	ドラキュラ 3 & 4、多読提出				
4.	ドラキュラ 5 & 6、多読提出				
5.	ドラキュラ 7 & 8、多読提出				
6.	ドラキュラ 9 & 10、多読提出				
7.	ドラキュラ 11 & 12、多読提出				
8.	フランケンシュタイン 1 & 2、多読提出				
9.	フランケンシュタイン 3 & 4、多読提出				
10.	フランケンシュタイン 5 & 6、多読提出				
11.	フランケンシュタイン 7 & 8、多読提出				
12.	フランケンシュタイン 9 & 10、多読提出				
13.	フランケンシュタイン 11 & 12、多読提出				
14.	フランケンシュタイン 13、多読提出				

15.	まとめ				
授業外学習について	授業外学習は、以下の事項に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1. テキスト・プリントの予習（日本語訳作成） 2. 多読の課題（週に3000語以上）				
教科書	Mary Sherry、岡田春馬編注『フランケンシュタイン』（三修社） （「ドラキュラ」の英文についてはプリントで配布。）				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60 %	0 %	10 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時において詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更があれば、ガイダンス時または授業中に連絡する。</li> </ul>				

（英語と文化Ⅱ）

科 目 名	ドイツ語				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	30
授 業 担 当 者	安高 誠吾（非常勤講師）		単位認定責任者	安高 誠吾	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	ヨーロッパの言葉を構成している三本柱は、動詞と名詞（代名詞）と語順に関する文法で、中でも動詞の文法（人称変化と動詞が置かれる位置）が最も基本です。授業では動詞の学習に特に力を置き、不定詞句から指示された文を作る練習をします。英語に比べてドイツ語の文法変化は複雑ですが、細部にとらわれずに、大きくドイツ語という言語の構造を理解することが大切です。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各文法項目のキーセンテンスを応用して基礎的な文章表現ができる。</li> <li>2. 単語や文章を正確に発音ができる。</li> <li>3. 基礎単語500語を覚える。</li> <li>4. 値段や時刻、年月日など数の表現ができる。</li> <li>5. 挨拶や受け答えなど平易な日常会話ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	中間試験と定期試験によって評価する。		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20 %	宿題提出、予習や授業での発表等の取組姿勢で評価する。		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	教材を通してドイツの社会を知る。		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1. 2.	ガイダンス（ドイツ語はどんな言葉か）、つづりと発音①（Lektion 0） *末尾の（Lektion 〇）は教科書の課を表す。				
3. 4.	つづりと発音②、発音練習（数の言い方、挨拶）（Lektion 0）				
5. 6.	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化動詞、sein 動詞の変化、定動詞とその位置）（Lektion 1）				
7. 8.	名詞の文法①（性、数、格 不定冠詞と定冠詞と格変化）、haben 動詞の変化（Lektion 2）				
9. 10.	名詞の文法②（名詞の複数形と格変化）（Lektion 3）				
11. 12.	不規則動詞の人称変化、命令形、人称代名詞の格変化（Lektion 4）				
13. 14.	前置詞、前置詞の格支配（Lektion 5）				
15. 16.	定冠詞類、不定冠詞類、否定表現（Lektion 6）				
17. 18.	複合動詞（分離動詞と非分離動詞）、接続詞（Lektion 7）				
19. 20.	話法の助動詞、未来時制（Lektion 8）				
21. 22.	動詞の3基本形、動詞の過去人称変化（Lektion 9）				
23. 24.	現在完了形（Lektion 10）				
25. 26.	形容詞の格変化、比較表現、zu 不定詞（Lektion 11）				
27. 28.	受動態、再帰動詞（Lektion 12）				
29. 30.	中級文法への展開（関係文、接続法など）				

授業外学習について	適時宿題を出すので提出すること。語学の学習には復習が効果的であるので、出来るだけその日の内に復習してもらいたい。				
教科書	書名：「ミュンヘンに夢中」、著者：アンドレア・ラープ、石井 学 他、発行所：同学社				
参考文献	根本道也 他編『アポロン独和辞典』、同学社				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	70 %	0 %	10 %	0 %	20 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<p>○ 開講中に試験は2度行う。</p> <p>・中間テスト：15回目の授業が終了した段階で行う。（試験範囲は1～15回目の授業で学習した事項）</p> <p>・定期試験：30回目の授業が終了した段階で行う。（試験範囲は16～30回目の授業で学習した事項）</p> <p>・再試験：中間テスト、および定期試験で合格点に達しなかった者に対して実施する。</p> <p>○ 適時小テストを行うが、理解度を自己チェックするもので、成績評価には加えない。</p> <p>○ 授業開始時に席を決めるので、毎回その席に座ること。</p>				

（ドイツ語）

科 目 名	中国語 2				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく中国語1（初級レベル）を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語1で習った中国語基本文法をベースに一步進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35 %	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50 %	レポート		
	論理性	%			
	国際感覚	15 %	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス ペンインと基本文型の復習				
2.	第一課 中国人の朝食 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第二課 タクシーに乗る 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第三課 高価な映画券 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	まとめとテスト				
9.	第四課 AA製とAB製 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第五課 病気 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				
13.	第六課 ネットショッピング 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				

授業外学修について	授業中に小テストがあり、復習をしておくこと。				
教科書	内田慶市ほか 『中国語への道【準中級編】』 金星堂				
参考文献	適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0 %	20 %	50 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語2)

科目名	中国語3				
配当学年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	1単位	授業回数	15
授業担当者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく中国語1（初級レベル）を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。講義の後半期に中国語検定試験についても紹介し、模擬テストを経験してみる。</p> <p>中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語1で習った中国語基本文法をベースに一步進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35%	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50%	レポート		
	論理性	%			
	国際感覚	15%	授業参加、レポート		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第七課 剩男剩女 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第八課 大学生生活 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第九課 感謝を表す 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	中国語検定模擬試験				
9.	第十課 若者の就職意識 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第十一課 月光族 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				
13.	第十二課 海外での奇遇 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				

授業外学修について	授業中にテストがあり、復習をしておくこと。				
教科書	内田慶市ほか 『中国語への道【準中級編】』 金星堂				
参考文献	授業中適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0 %	20 %	50 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語3)

科 目 名	技術中国語 1				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	張 公 儉		単位認定責任者	張 公 儉	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>中国や台湾などでは、エレクトロニクスや光技術の分野において著しい進歩をとげている。日本の産業界にとっても、中国や台湾などの中国語圏諸国は手強いライバルであるとともに、生産拠点として重要なパートナーでもある。この重要なパートナーと付き合いしていくためには、中国語で書かれた光科学技術を理解することは必須の要件である。そこで技術中国語 1 では、初等のエレクトロニクスやフォトニクスを題材として、中国語で書かれた科学技術の文章を読解する能力を育成する。</p> <p>専門分野での中国語学習には文章を読み、その分野の用語と表現に接すること、討論、レポートをまとめる中で知識として得た用語と表現を実際に使用することが大切である。しかし、教育時間の制約などのために、用語、表現との接触は制限がある。効率的に一般中国語から科学技術中国語への橋渡しを行うために、専門分野の内容を理解し、内容に踏み込んだ表現の解説を行って、(1) 科学技術基礎語彙の増加、(2) 書き言葉での表現能力、特にレポート作文能力の向上を図ることは技術中国語の位置付けと目的である。</p>				
授業科目の到達目標	<p>数理、電磁気学および化学専門を踏まえた内容において</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的科学技術用語の習得</li> <li>2. 基本的表現の習得</li> <li>3. 基本的な科学技術中国語表現を理解できる。</li> <li>4. 自分の言葉に科学技術中国語表現を翻訳できるようになる。</li> <li>5. 中国語で練習問題を解いて表現できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	100 %			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス:				
2.	科学技術と中国語				
3.	技術中国語の発音 1				
4.	技術中国語の発音 2				
5.	コンピューター中国語入力法				
6.	基本記号と用語				
7.	数学用語 1				
8.	数学用語 2				

9.	数学表現				
10.	物理化学用語				
11.	式と記号の表現				
12.	単位				
13.	物理表現				
14.	電磁気学に関する表現				
15.	まとめ				
授業外学修について	授業中で練習課題を完成する。レポート課題内容などについて授業中に指示する。				
教科書	教科書：プリントを配布する 参考書：授業で示す。				
参考文献	講義の際に指定する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	30 %	30 %	40 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(技術中国語 1)

科 目 名	技術中国語 2				
配 当 学 年	4 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	張 公 儉		単位認定責任者	張 公 儉	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>専門分野での中国語学習には文章を読み、その分野の用語と表現に接すること、討論、レポートをまとめる中で知識として得た用語と表現を実際に使用することが大切である。しかし、教育時間の制約などのために、用語、表現との接触は制限がある。効率的に一般中国語から科学技術中国語への橋渡しを行うために、専門分野の内容を理解し、内容に踏み込んだ表現の解説を行って、(1) 科学技術基礎語彙の増加、中国語文献、理工学分野の著作の和訳、(2) 書き言葉での表現能力、特にレポート作文能力の向上を図ることは技術中国語の位置付けと目的である。</p>				
授業科目の到達目標	<p>数理、電磁気学および化学専門を踏まえた内容をはじめ、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的科学技術用語の習得</li> <li>2. 基本的表現、文型の習得</li> <li>3. レポート表現・文体の習得</li> <li>4. 光科学技術分野においての文章を読める。</li> <li>5. 科学技術用語の語彙、表現を用いて一定の作文能力を身につける。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	100 %			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス				
2.	科学技術中国語の表現				
3.	比較、対比、類似				
4.	比較、対比、類似を使う練習				
5.	原因・理由				
6.	原因・理由を使う練習				
7.	根拠・結論、構成・列挙				
8.	根拠・結論、構成・列挙を使った練習				
9.	提示、定義、分類				
10.	提示、定義、分類を使った練習				
11.	仮定・条件				
12.	仮定・条件を使った練習				
13.	手段・方法および選択				
14.	演習				

15.	まとめ				
授業外学修について	授業中で練習課題を完成する。レポート課題内容などについて授業中に指示する。				
教科書	教科書：プリントを配布する 参考書：必要に応じてプリントなどを配布する				
参考文献	講義の際に指定する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	40 %	30 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(技術中国語2)

科 目 名	科学技術英語 I				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. On the other hand, technical reports also contain many unfamiliar phrases, idioms and vocabulary. This lecture will use example texts from various technical and scientific fields, such as natural sciences, engineering, and informatics to teach the peculiar structure and function of a technical report				
授業科目の到達目標	1. The students will be able to read technical reports. 2. Students will learn a list of useful vocabulary. 3. Students will learn useful idiomatic phrases that often are used in technical reports. 4. Students will learn the grammatical style of a technical report. 5. The students will be able to understand technical reports.				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30 %	レポート、プレゼンテーション		
	専門知識	30 %	レポート、プレゼンテーション		
	倫理観	%			
	主体性	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	協調性	5 %	取組状況		
	創造力	5 %	レポート、プレゼンテーション		
責任感	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況			
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Purpose and structure of a technical report				
3.	Grammatical rules that apply to a technical report I				
4.	Grammatical rules that apply to a technical report II				
5.	Application of those rules				
6.	Idioms, phrases and vocabulary often used in a technical report.				
7.	Greek and Latin roots of vocabulary				
8.	Application of those idioms, phrases and vocabulary I				
9.	Application of those idioms, phrases and vocabulary II				
10.	Translation of a technical report from English to Japanese I				
11.	Translation of a technical report from English to Japanese II				
12.	Translation of a technical report from Japanese to English I				
13.	Translation of a technical report from Japanese to English II				
14.	Translation of a technical report from Japanese to English III				
15.	Summary				

授業外学修について	Memorizing vocabulary. Training of grammar rules.				
教科書	ポータルからダウンロードできるプリント Olaf Karthaus 著, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0%	0%	40%	40%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 翻訳課題 「取り組み状況」 授業中のグループワークとディスカッション				

(科学技術英語 I)

科 目 名	科学技術英語Ⅱ				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. Based on the lecture in spring, this lecture will use this knowledge and the students will write a short technical report about an experiment the students conducted in class.				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The students will be able to observe experiments in class.</li> <li>2. The students will learn a list of vocabulary concerning these experiments.</li> <li>3. Students will be able to use useful phrases and idioms for a technical report.</li> <li>4. The students will be able to write a 200 word short technical report.</li> <li>5. Students will be able to listen to the presentation of a technical report.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30 %	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	専門知識	30 %	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	倫理観	%			
	主体性	20 %	レポート、プレゼンテーション		
	論理性	%			
	国際感覚	20 %	レポート、プレゼンテーション		
	協調性	%	取り組み状況		
	創造力	%			
	責任感	%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Structure of a technical report				
3.	Grammatical rules for a technical report				
4.	Experiment #1				
5.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				
6.	Writing a 200 word report I				
7.	Writing a 200 word report II				
8.	Presentation of the report I				
9.	Presentation of this report II				
10.	Experiment #2				
11.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				
12.	Writing a 200 word report I				
13.	Writing a 200 word report II				
14.	Presentation of the report I				
15.	Presentation of this report II				
授 業 外 学 修 に つ い て	復習について： 授業のノートを整理しながら理解度を確認し、理解できなかったところは次回の授業で質問できるよ				

	うまとめておく。				
教科書	Olaf Karthaus ら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	Richard Cowell ら, “技術英語の基本”, コロナ社, ISBN 4-339-07780-1, 2400円				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	x	x	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	50 %	40 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 宿題のレポート 「プレゼンテーション」 宿題の口頭プレゼンテーション 「取り組み状況」 授業中のディスカッション				

(科学技術英語Ⅱ)

科 目 名	英語コミュニケーション				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>Students will learn basic vocabulary and phrases concerning information technology. Much time will be spent writing, preparing and delivering an English presentation. All students will be required to use some kind of presentation software, such as Apple Keynote or Microsoft PowerPoint. This class is held in English.</p> <p>基本的なITの単語と表現を学ぶ。多くの時間は学生が英語の発表を書いて発表する。この発表でプレゼンテーション・ソフト（例えば、AppleのKeynoteやMicrosoftのPowerPointなど）の使用が求められます。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IT関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. プレゼンテーションを英語で書くことができる。</li> <li>4. 英語でプレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションを作成することができる。</li> <li>5. 効果的な英語プレゼンテーションを行うことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50 %	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	50 %	プレゼンテーション		
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Introduction イントロダクション				
2.	Mobile Technologies モバイルテクノロジー				
3.	Computational Thinking 計算論的思考				
4.	Web Literacy ウェブリテラシー				
5.	Digital Media デジタルメディア				
6.	Word Processing ワードプロセッシング				
7.	Social Media ソーシャルメディア				
8.	Databases & Spreadsheets データベースとスプレッドシート				
9.	Graphing グラフの作り方				
10.	Using Presentation Software プレゼンテーションソフトの使い方				
11.	Writing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの作成				
12.	Designing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの設計				
13.	Preparing for the Final Presentations 最終プレゼンテーションの準備				
14.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				

15.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
授業外学修について	We will use some class time for making the presentations, but students will largely complete the presentations outside class. Students should also use their own time to review the vocabulary, as well as other small assignments. プレゼンテーション作成は授業内でも行いますが、殆ど授業外に作成する必要があります。さらに、授業外に単語の復習やその他の宿題に取り組む必要があります。				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	○	×
成績評価の割合	40 %	20 %	0 %	40 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(英語コミュニケーション)

科 目 名	実用英語				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>大学入学までに勉強した英文法を会話などに実践的に使い、定着することを目指す。また、授業内の活動を通じて、自分の研究や興味があることが英語で話す、書く、聞く、読む練習を行う。理系では英語が共通語として使われることが多く、様々な国の人と英語でコミュニケーションをとることを見据えて、授業では様々な国の人が話す英語を教材として扱う。授業の課題として、エッセイ、ブックレポート、シャドーイング、スピーキングがあり、これらを通して4技能（聞く・話す・書く・読む）を強化する（タイミングによっては、海外の大学とのオンライン交流がある）。なお、本クラスは英語でのペアまたはグループを授業で実施する。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで学習してきた文法を実践的に使うことができる。</li> <li>2. さまざまな話題（例えば旅行、休暇、買い物、など）について、自分の意見を英語で述べることができる(2分程度)。</li> <li>3. さまざまな話題（例えば旅行、休暇、買い物、など）について、150語以上のエッセイを書くことができる。</li> <li>4. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的なトピックセンテンスを書くことができる。</li> <li>5. カタカナ英語ではなく、英語の発音（語末の母音を落とすなど）を意識して、英語を発話できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	定期テスト・その他テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	20 %	課題・レポート		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業の説明、日本語と英語の違い（発音編）				
2.	日本語と英語の違い（書き方編）				
3.	Unit 1 College Life; 初対面の人との会話のフレーズの練習				
4.	Unit 2 Mobile Phones; 約束・予約の取り付け方や電話での会話の練習				
5.	Unit 3 Movies ; (友達などの) 誘い方と断り方の練習				
6.	Unit 4 Dating ; 人の描写のしかた				
7.	Unit 5 International Food ; お願いのしかたとレストランでの会話練習				
8.	レビューとMidterm Exam (Unit 1 ~ Unit 5)				
9.	Unit 6 World Englishes; 繰り返しいてもらうときの練習				
10.	Unit 7 Weekends/Vacations ; 週末や休暇について話す練習				
11.	Unit 8 Music/Songs ; 好き嫌いの表現の練習				

12.	Unit 9 Sports ; 自分の気持ちを表現する練習				
13.	Unit 10 Shopping ; 買い物ときの会話練習				
14.	Unit 11 Traveling/Studying Overseas ; 旅行ときの会話練習				
15.	Final Exam				
授業外学修について	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容には授業前に目を通し、わからないことばは調べておく（50分程度）。</li> <li>・授業後には、授業で扱った表現やことばの復習をしておくこと。（40分程度）</li> <li>・各自、教科書の音声はダウンロード</li> </ul> <p>をすること。 <a href="https://www.kinsei-do.co.jp/download/4003">https://www.kinsei-do.co.jp/download/4003</a> ・単語学習には Quizlet を使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと（使い方などは授業内で説明）。</p>				
教科書	Global Activator; Your English, my English, world Englishes, Tadashi Snihozawa and Gregory A. King 著（金星堂）				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50 %	15 %	25 %	0 %	10 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には、15回目に実施するテストを受験できない。また、再試験は実施しない。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> </ul>				

(実用英語)

科 目 名	時事英語				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	この授業では、ニュース英語を題材にして、初中級レベルの英語力を養成することと時事問題に関する知識を深めるとともにそれに対する自己意識を高めることを目標とする。				
授業科目の到達目標	1 ニュース英語の構成 (headline, lead, body) や特徴 (be動詞の省略など) を知ることができる。 2 ニュース英語を読む際に必要な基本単語を身につけることができる。 3 ニュース英語を読むことで国内・国外の様々な問題を知ることができ、それに対する自分の考えをまとめて意見を述べることができる。 4 副教材を通して、TOEICのリスニングとリーディングの問題形式に慣れ、ニュース英語とは違ったビジネス英語の基礎力を身につけることができる。 5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる (直読直解)。				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50% %	期末テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30% %	課題提出 (多読・副教材の演習問題)、プリント (ニュース英語) の予習		
	論理性	10% %	リアクションペーパーの作成		
	国際感覚	10% %	世界の諸問題に関する自分の考えや意見		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス (授業の進め方など)				
2.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)				
3.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
4.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
5.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
6.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
7.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
8.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
9.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
10.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
11.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				
12.	ニュース英語、課題提出 (多読・演習問題)、リアクションペーパー提出				

13.	ニュース英語、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
14.	ニュース英語、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 プリント（ニュース英語）の予習（日本語訳作成） 2 リアクションペーパーの作成 3 多読の課題（1週間に2500語以上） 4 副教材の演習問題				
教 科 書	土屋知洋他『TOEIC&R Testのための基礎演習』（三修社） （ニュース英語に関してはプリントを配布する。）				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成 績 評 価 の 割 合	50 %	0 %	20 %	0 %	30 %
成 績 評 価 の 基 準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業時に連絡する。</li> </ul>				

（時事英語）

科 目 名	スポーツ総合 1				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	伊熊 克己（非常勤講師）		単位認定責任者	伊熊 克己（非常勤講師）	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	入学時のアイスブレイキングの導入と、体力診断テストとバレーボール、バスケットボールの3種目についてゲームを中心に展開する。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が主体的にそれぞれの運動種目についてのウォーミングアップができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60 %	取組状況等		
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	30 %	取組状況等		
	創造力	%			
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	ガイダンス：受講上の注意と評価方法について				
2.	体力診断テストⅠ				
3.	バレーボール：パドドル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	バレーボール：レシーブ、サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	バレーボール：トスからスパイク、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	バレーボール：クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バスケットボール：パス、ドリブル、シュートの基本、ミニゲーム、3×3ゲーム				
8.	バスケットボール：オフェンスの種類と動きの解説、ゲーム				
9.	バスケットボール：ディフェンスの技術解説、ポジション確認、ゲームリーグ戦				
10.	バスケットボール：戦術確認、ゲームリーグ戦				
11.	ソフトボール：キャッチボール、発展キャッチボール、チーム編成と簡易ゲーム				
12.	ソフトボール：ピッチング（スリングショット・ウインドミル投法等の挑戦）、チーム編成と簡易ゲーム				
13.	ソフトボール：シートノック（内野中心）、チーム編成、リーグ戦				
14.	ソフトボール：発展シートノック、チーム編成、リーグ戦				
15.	体力診断テストⅡ、まとめ				
授業外学修について	本授業における到達目標を各自で設定すること。 例えば				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合1)

科 目 名	健康科学				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	8
授 業 担 当 者	伊熊 克己（非常勤講師）		単位認定責任者	伊熊 克己（非常勤講師）	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	我が国の科学技術や交通機関の日進月歩の発達は、国民の生活環境に大きな変化をもたらし、我々の生活をより快適で利便なものへと変化させてきた。その恩恵の反面、慢性的な運動不足による生活習慣病やストレスの増大等、我々国民の様々な健康問題を誘発するといった弊害を招いている。以上の現状を踏まえ、本講義は受講学生の望ましい将来の健康観確立のために、日常生活の見直しと、健康の維持増進に必要な身体運動ならびその実践方法について解説していきたい。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の健康問題を認識し、健康観を意識することができる。</li> <li>2. 健康障害と生活習慣の関連を認識し、運動の必要性を意識することができる。</li> <li>3. 基本的な身体解剖学・生理学・栄養学の知識を身につけることができる。</li> <li>4. 身体運動の科学的理解を深めるとともに、科学的な実践方法を身につけることができる。</li> <li>5. 生涯スポーツの意義を認識し、将来の健康確保に必要な生涯スポーツの知識や実践方法について主体的に学習する能力を身につけることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20 %	小テスト		
	専門知識	50 %	小テスト		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	30 %	レポート		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方） 現代人の健康状態 健康危機と生活環境 健康認識・健康観				
2.	生活習慣と健康障害 生活習慣病予防のための運動の必要性				
3.	筋肉の種類や組成・筋収縮のエネルギー源とメカニズム				
4.	安全な運動実践（ウォーミングアップ・クーリングダウン・ストレッチング） スポーツ外傷・障害からの回避 救急法				
5.	運動処方作成				
6.	トレーニング処方の実際				
7.	運動と栄養（食にかかわる問題提起）食生活改善				
8.	生涯スポーツとレクリエーション・まちづくりとスポーツ活動 まとめ（最終レポート課題の作成方法・授業評価）				

授業外学修について	毎時間、前回授業を確認するための小テストを行うので必ず復習して準備すること。授業中に配布された資料はレポート作成時に活用できるので熟読し、保管すること。				
教科書	毎回、レジュメと資料を配布する。				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	×
成績評価の割合	0 %	60 %	40 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	この講義は全8回です。				

(健康科学)

科 目 名	スポーツ総合2				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	今野 靖政（非常勤講師）		単位認定責任者	今野 靖政（非常勤講師）	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	クラスの意識を持たせるためにチームゲーム、団体戦方式でミニバレー、ラケットテニス、卓球の3種目を展開し、フィットネステスト（新体力テスト）では、現状における個々人の体力確認をする。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が主体的にそれぞれの運動種目についてのウォーミングアップができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60 %	取組状況等		
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	30 %	取組状況等		
	創造力	%			
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	ガイダンス：受講上の注意と評価方法について				
2.	フィットネステストⅠ				
3.	ミニバレーボール：パストリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	ミニバレーボール：サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	ミニバレーボール：スパイク、ブロック、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	ミニバレーボール：クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バドミントン：クリア、ドロップ、ヘアピン等のショットスキルの習得、2人組ラリー、簡易ゲーム				
8.	バドミントン：スマッシュ、ドロップの使い分け、シングルスリーグ戦				
9.	バドミントン：応用ストローク、ブロック別のダブルスローテーションゲーム				
10.	バドミントン：ストロークの完成、参加者全員によるダブルスローテーションリーグ戦				
11.	卓球：サービス&フォアハンドストローク、シングルスゲーム				
12.	卓球：バックハンドストローク、1対1のラリー、シングルスゲーム				
13.	卓球：ショート打法とスマッシュ、ダブルスゲーム				
14.	卓球：ドライブ&カット打法、ダブルスゲーム				
15.	フィットネステストⅡ、まとめ				
授業外学修について	本授業における到達目標を各自で設定すること。 例えば				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

（スポーツ総合2）